



5月27日に本校6年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、その結果の概要と本校の児童の状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数）



本校の平均正答率は国語、算数ともに全国平均を上回りました。国語は6.3P、算数は3.8P上回るなど、基礎基本の学習が定着し、活用する力も育まれていることが伺えます。

国語科より



「書くこと」領域の「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題の正答率が全国平均を大きく上回っていました。今後も目的や意図、文章の種類や特徴に応じて、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合を、自ら判断して書くことができるように指導の充実を図っていきたくと考えます。

また、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題の正答率についても、全国平均を大きく上回っていました。漢字の学習指導に当たっては、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を読み返す中で、正しい使い方を習得できるよう、引き続き働きかけていきます。

しかし、「資料を用いた目的を理解することができるかどうかをみる」問題の正答率が低くなっています。スピーチをする際には、目的や意図に応じて、より効果的な資料提示の順番やタイミングがあることを理解し、自ら判断できるように指導していきます。

算数科より



「数と計算」領域の「小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題の正答率が全国平均を大きく上回っていました。30mを1としたときに12mが0.4mに当たるわけを書く問題です。

形式的な理解だけにとどまらず、自力解決後、自分の考えを伝え合う活動を通して、考えを深めていく授業を継続したことが成果の一つとして表れていると考えられます。

「図形」領域の問題についても、全国平均を大きく上回る数値を示していましたが、「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができるかどうかをみる」問題では、正答率がやや低くなっています。図形の問題に取り組む際は、具体物などを用いて操作活動を多く取り入れるなどし、さらに、グループで意見交流する場を設け、多様な考え方や捉え方に気付けるよう、継続して指導していきます。

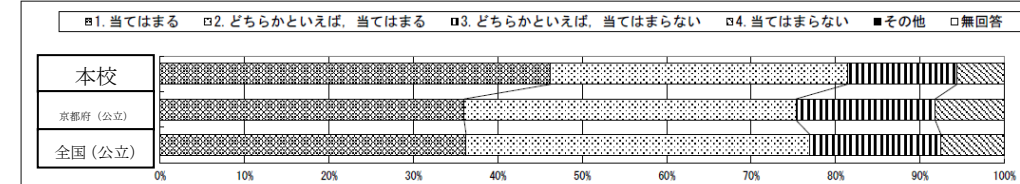
保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。引き続き、家庭とも連携した取組を一層推進してまいります。

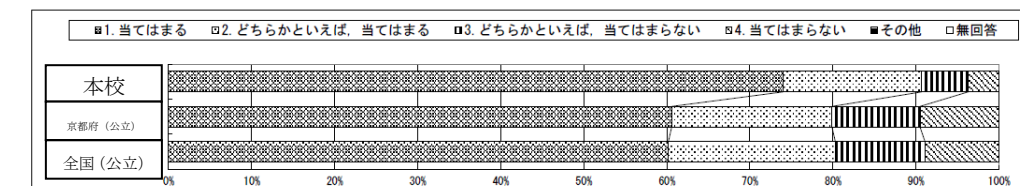


児童質問紙調査から

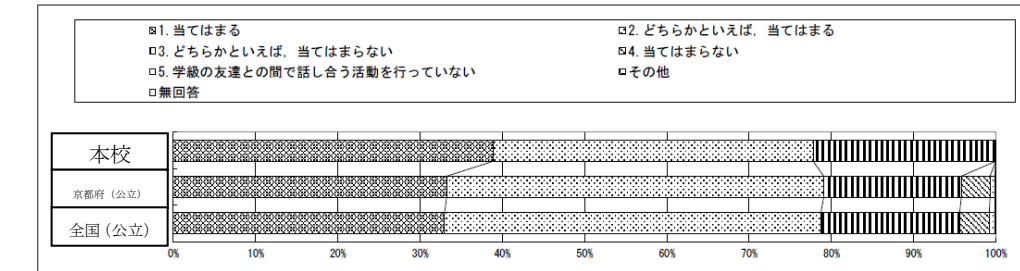
Q 自分には、よいところがあると思いますか。



Q 将来の夢や目標をもっていますか。



Q 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



本校の児童は全国と比べ、「自分には、よいところがあると思う」、「将来の夢や目標をもっている」比率が高いです。特に、「将来の夢や目標をもっている」と回答している全国の児童数の割合が年々減少傾向にある中で、本校の児童は高い数値を示しています。これは、「生き方探究パスポート」等を活用した、系統的なキャリア教育の実践により、児童が学校での学びと社会や自己の将来とのつながりを見通すことができているためであると考えられます。

また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合が高く、「対話」を重視した授業改善の取組が効果を上げていることが伺えます。